

まとめのプログラム 作ろう! 水辺のエコマップ

私たちの暮らしと川の環境や水の大切さを調べてみよう!

☆用意するもの☆

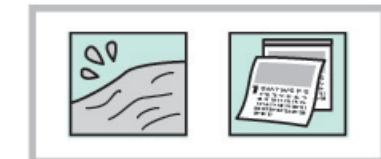
川のまわりの地図、模造紙、
(あれば)デジタルカメラなど、
メモ用紙、スケッチブック、
バインダー、筆記用具、
双眼鏡

☆すすめ方☆

- ① 川のまわりの地図を利用して、マップの対象範囲を決めます。
 - ② マップに載せる内容を話し合って決めます。
 - ③ 流域の地図を持って現地に内容を調べに行きます。
- (マップに載せる内容の例)
- 川のまわりの形、川のはじまり、橋や道路、名前の由来、観察できた生き物、名所、特徴のある建物、歴史や言い伝えなど
- ④ 昔の地図や写真を図書館や郷土資料館などで見つけ、現在の川のまわりの地形や川の様子と比べてみます。変わっているところがあれば、その原因を調べます。
 - ⑤ お年寄りから昔の話を聞き、川とそこに住む人の生活の結びつきを調べます。
 - ⑥ 家や学校に戻って、集めてきた情報を地図に書き込んでいきます。

保護者・指導者の皆さんへ

川などに生息する動植物は川の流域の土地利用や水質の汚れなどに影響を受けながら生きていることを子どもたちに気づかせてください。歴史や文化と自然環境や社会環境とのかかわりにも目を向けてあげてください。



〇〇川エコマップ

名前の由来

町の名前 ~~~~~

川の名前 ~~~~~

見つけたもの

- 田んぼにオオマジカクシがいた

見つけたもの

- 水路がコンクリートでない水が流れこんでいた

グループで話したこと

1 家や工場があるところでは水がよごれている
2 水や草、田んぼのまわりには虫や鳥がいた
3 ~~~~~

こんな川だったらいいな

1 魚がいっぱいいる川
2 水遊びができるような川
3 ~~~~~
4 ~~~~~

地名や川・湖・沼などの名前の由来

を調べてみましょう。

北海道の市町村名のうち、約8割

がアイヌ語に由来しています。

現在では、そのほとんどが漢字で

書き表されているため、アイヌ語と
気付かないこともあります。

【タンネ・ト】

「長い・沼」ながぬま 長沼(長沼町)

【ボロ・ト】

「大きい・湖」おおぬま 大沼(七飯町)

【トー・ヤ】

「湖・岸」とうや 洞爺(洞爺村)

【モ・ペッ】

「小さな(静かな)・川」もんべつ
紋別(紋別市)、門別(門別町)

【シ・ペッ】

「ほんとうの(大きい)・川」しべつ
士別(士別市) 標津(標津町)

*道立アイヌ民族文化研究センター発行のアイヌ文化紹介小冊子「ポン カンピソシ」の1冊目「イタク はなす」より。

地域のお年寄りからお話を聞いたり、図書館やインターネットなどで住んでいる土地の名前や川の名前の由来を調べて、マップに書き入れましょう。